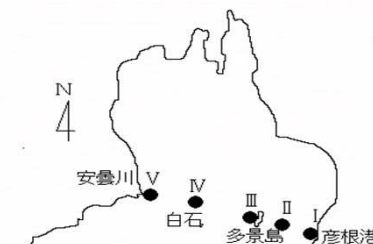


# 琵琶湖定点定期観測結果速報(令和5年8月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご注意ください。

調査年月日 令和5年8月21日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点  
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町  
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

## 調査結果

平均値 … 5地点の平均値

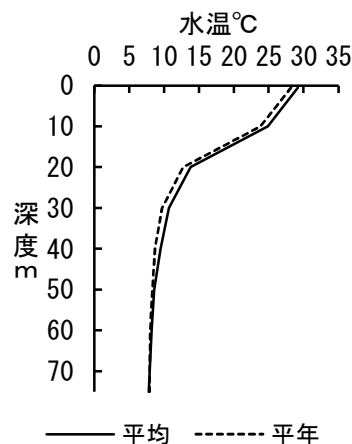
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2013年～2022年(平成25年～令和4年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 8月平均値 7.4m 平年値 6.5m

## 2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	8月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	29.2	28.2	+1.0
10	24.9	23.8	+1.1
20	13.8	12.7	+1.1
30	10.7	9.7	+1.0
40	9.5	8.7	+0.8
50	8.6	8.3	+0.3
60	8.2	8.0	+0.2
75	7.8	7.9	-0.1



## 3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
7月下旬	28.9	26.5	+2.4
8月上旬	29.6	27.8	+1.8
8月中旬	28.7	27.8	+0.9

#### 4. プランクトン沈殿量 (ml/m<sup>3</sup>)

水層 (m)	8月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	7.8	12.0	-4.2
10~20	3.7	5.4	-1.7
20~40	3.7	1.3	+2.4
40~75	0.4	0.6	-0.2

(プランクトンネットNXX14使用)

#### 5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンの量は全体に少なかったが、細胞数では地点I~III、Vで*Aulacoseira granulata*(アウラコセイラ:珪藻)が最も多く、地点IVで*Uroglena americana*(ウログレナ:黄色鞭毛藻)が最も多かったほか、量的に見ると全ての地点で*Micrasterias hardyi*が優占していた。

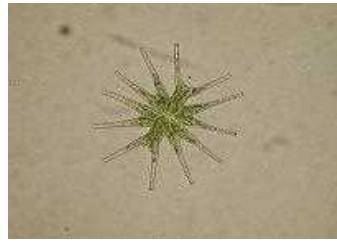
動物プランクトンについては全ての地点で*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期とコペポデイド期の幼生が個体数で多く認められた。



*Aulacoseira granulata*



*Uroglena americana*



*Micrasterias hardyi*



ノープリウス期幼生



コペポデイド期幼生

#### 6. DO (溶存酸素濃度: mg/L) 多項目水質計による測定値。ただし平年値(参考値)はウインクラ法による測定値。

深度 (m)	8月平均値		平年値(参考値)		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	7.9	102.9	8.0	103.8	-0.1	(-0.9)
10	8.1	97.7	8.1	98.3	0.0	(-0.6)
20	8.3	79.9	7.6	74.8	0.7	(+5.1)
30	8.8	79.2	8.5	77.8	0.3	(+1.4)
75	5.1	43.2	5.6	48.5	-0.5	(-5.3)